



## 北九州市 発達障害者支援地域 協議会・専門部会

第一部会・支援システム

検討部会（第三回）

2021.10.12 19:00～

## 本日の予定

※ 20時30分  
終了

### 〔議 題〕

事例検討（その1 地域医療連携、学校等での支援）

### 〔進め方〕

- ・事例発表の後、代表者が論点に沿って質問、部会長の調整で発表者と質問者が対談
- ・時間の経過を見て(概ね30分)質疑を区切り、次の事例検討へ進む
- ・2事例の発表及び質疑終了後、全員で振り返り、まとめの議論を行う

# 事例発表について

## 事例発表 ① 地域医療連携 (30分)

発表 総合療育センター児童精神科  
山口 若菜 氏(15分)  
代表質問 北九州市医師会 理事  
天本 祐輔 氏(15分)

## 事例発表 ② 学校等での支援(30分)

発表 スクールソーシャルワーカー  
角田 かおり 氏(15分)  
「発達課題と知的課題のある子どものいる家庭  
への関係機関連携」  
代表質問 特別支援教育相談センター所長  
徳永 勝恵 氏  
子ども総合センター判定係長  
小松 未央 氏 (2名で15分)

# 意見交換の 着眼点 ①

(代表質問、意見交換のポイント)

- ・ 提示された事例の処遇について議論するのではなく、事例から見えてくる支援システムの現状と課題、改善点に焦点を当てて議論する。

[共通の確認事項]

- ① 連携のキーパーソン (誰が調整役か)
- ② 連携ツール(内容・記載事項、活用状況)
- ③ 連携の「流れ」について (いつ、どこ(誰)が起点となり、どこ(誰)へ繋がるか)

[共通の着眼点]

- ① その人に必要な「良い支援」にまで繋いでいるか。
- ② 本人や家族の思いや願いが反映できているか。
- ③ 役割分担が明確であるか(何をすればよいか/何を頼みたいか)
- ④ 連携先機関の機能に関する情報が開示され、共有されているか  
(どこで何ができるか)
- ⑤ 組織・職員間で、多職種連携の仕組みやツールについて、情報が共有されているか

# 個別の課題

※今回の事例ですべて  
網羅できるわけではない  
～

## 〔個別の課題① 地域医療連携〕

- ・ 小児科医向けの研修メニュー(市内)、実施状況、受講状況等
- ・ 療育センターと地域医療機関のチーム支援事例(精神科との連携事例を含む)
- ・ 治療内容の具体的共有方法、困ったときの相談体制

## 〔個別の課題② 学齢期の支援〕

- ・ 学校における子どもの「困り感」のアセスメント、支援の効果検証の方法
- ・ 教員向けの研修メニュー(市内)、実施状況、受講状況等
- ・ 校内におけるチーム支援(チーム学校)、及び学校と地域のチーム支援の事例
- ・ 早期支援コーディネーターの具体的支援内容

# 今後の予定

## 《R3.12月～R4.1月》

事例検討(web会議) ※2回程度 web会議開催

→ 事例を基に、今後の取組について検討

- ・ 多職種連携の重点施策(共通事項)
- ・ ライフステージ別の重点施策  
青年期～成人後、保護者支援、家庭・地域での支援  
(幼少期～成人後)

## 《R4.1～2月》 ※ web会議開催

議論のまとめ